

売りは、人財・ブランド力、 「人に喜ばれるアイデア大好き集団」は 鹿児島さつま揚げを極めます!!

シュウエイ

『挨拶・朝礼・清掃』No.1を掲げています。出社時はもちろん、お客様には全員起立してご挨拶します。朝礼では姿勢、礼の仕方、発声を揃え、理念の唱和や個人の目標「my target」、そして日

常の良い悪い出来事発表などを毎日欠かしません。社員の明るさと礼儀正しさは来訪者や電話対応、訪問にも活かされています」と語るのは、シュウエイ(大田区大森本町「東京支店」、小林稔夫社長、03・3768・0758、<http://www.agetai-tabetai.com>)の小林

社長だ。「会社自慢を増やそう」を合言葉に今一番に取り組んでいるのが、障がい者雇用。一昨年から毎年雇用し、現在4名が働く。彼らの存在で「職場が明るくなる」と気づいた。経営指針が朝礼、会議、勉強会などを通して社員皆に浸透し、社内の雰囲気活性化していることが分かる。

今期創業60年を迎える同社は、鹿児島さつま揚げの製造と販売を手がけている。古くから伝わる「つけあげ」と呼ばれる薩摩地方の名産は、伝統的な原材料・製法を大切に、甘みとソフトな食感が特長。鹿児島県指宿市の本店では贈答品が主体で、市原市の千葉支店では業務用の商品を製造・販売・営業するなど分業して効率化を進め、全体の中核をなすのが大田区の東京支店である。

同社の贈答品は全国の百貨店、通販会社、一部量販店で取扱われ、業務用では飲食店や弁当製造会社

と継続的に取引をしている。伝統を守りながらも、最近ではネット販売や地元の高校とコラボした若者向けの商品開発などにも力を入れており、マーケティングと多岐にわたる売りこみに積極的だ。

「決して優等生ばかりではありませんが、『人に喜ばれるアイデア大好き集団』。経営者として、多くの気づきとともに日々社員に育てられていると実感しています。地元の方に『シュウエイがあつて助かる』とたくさん言われる会社をめざ

し、全員参加経営に邁進中です!!」と小林社長は熱く語る。



自慢の社員! 自慢の製品!